

株式会社ケアネット

Ono Motoyasu

代表取締役社長

大野 元泰 氏

◆Profile

大野 元泰（おおの もとやす）48歳

- 1963年 岐阜県生まれ
- 1986年 東京大学経済学部卒
- 1986年 山一証券株式会社 入社
- 1990年 株式会社日本総合研究所 入所
- 1991年 ポストコンサルティンググループ株式会社 入社
- 1995年 医療法人社団健育会 入社
- 1996年 株式会社ケアネット創業、代表取締役社長就任
- 2006年 株式会社葦の会 取締役就任（現任）
- 2009年 当社 取締役就任
- 2010年 代表取締役会長を経て代表取締役社長就任



人とは違う己れの強みを磨くことで、 自然に輝いたチームが生まれる。

満足度の高い医療情報を基盤に医師・医療従事者
および製薬企業双方のニーズに応え続けているケアネット社。
今回はその創業者である大野元泰社長に起業に至った経緯と今後の展望、
そして起業家に必要な要素と強いチームとは何かについてお伺いしました。

まず簡単に御社の事業について 教えてください。

当社では、製薬企業向けの営業支援サービスをメインに、医薬・医療情報サービスを展開しています。会社設立当初は、日本初の医師向け専門情報番組を提供する衛星放送事業からスタートしました。そこで培った動画制作ノウハウをベースに、現在は多忙な医師が効率的に医学・医療情報を学習できるような情報サービスを拡充しています。今では全国の医師の先生方のうち10万人以上が当社の会員となって下さっています。

社長の経歴は証券会社からスタートされて、 コンサルティング会社に進まれて、 医療法人に入られています。医療法人に 入られたきっかけはどのようなものでしょうか？

私は在学時代から、自分で事業を興したいと思っていました。大学卒業後、最初に山一証券に入社し、バブルやいろいろなものを知る機会を得ました。3年9ヶ月ほど勤務しましたが、事業のネタは証券マンをやっても見つからないと考え、住友銀行が日本総研を作るのに参画しまし

た。その後、BCG(ポストコンサルティンググループ)からの誘いを受け、3年半ほどさまざまな業界のコンサルティングに携わりました。そんな中で、医療業界はまだまだ“公”の部分が強く、体質が古いため、参入のチャンスがあると考え、この業界で事業を興そうと決めたのです。とはいえ現場を知らないと事業はできません。そんな折ある医療法人から「経営的な部分が弱いので、実際の経営をお願いしたい」という話を頂きました。臨床は医師に任せ、私は医療法人の経営そのものに取り組みました。2年を経て医療業界でやっていくイメージが湧いたため、ケアネットを立ち上げたという経緯です。

これから国内だけではなく 中国市場も視野に入れているとのことですが、 御社のこれからの展開は？

2001年に中国がWTOに加盟しました。インドもそうだとされていますが、医薬品の偽物が作られて勝手に売られている、しかもそれが膨大な数に及んでいて、グローバル企業がわざわざ進出したくないという国だったわけですね。しかし中国政府が、ブランド品も守りますよ、という姿勢を見せたため、この3年間で世界中のグローバル企業が集中して投資をしています。

中国はおそらくこれから世界を最もリードしていく存在となるでしょう。日本、韓国、シンガポールもベトナムもみんな含めた「オールアジア市場」になると考えています。そこにグローバル企業もオールアジアの統括を置きますし、医薬医療関係の事業に関わる人間は、みんなオールアジア感覚になっていくと思われま

す。医療とはドメスティックなものだとずっと考えられてきたのですが、医薬だけではなく医療も、実は国境を超えなければならない時代です。

私は、日本の医学のレベルは、アジアの中でナンバーワンだと確信しています。それは一つの優位性ですから、それをしっかりビジネスとしてマネジメントしていく必要があると考えています。日本の医療・医学もある程度、アジアという単位でものを考えざるを得なくなっているんですね。

やはりこれから海外に目を向けなくては
ということですが、我々 RBS でも起業や転職を
考えている学生もおります。
起業家の観点から何かアドバイスがあれば、
最後をお願い致します。

私は普段ビジネススクールなどに講師として呼ばれて行くことが多いのですが、その時に学生の方から「自分も事業家になろうと思っているのだけれど、何をすればよいのでしょうか？」といった質問を受けることがあります。

私が思うのは、自分だからできる部分というのが何かあるか？ということが大切。尖がった部分、つまり「ここだけは自分の強みだ」と言える部分をどれだけ強くするかとい



うことが大事だと思っているんです。

そうすると集まってくるんですよ、自分には無い一芸を持った人が。そして知らないうちにチームが出来るんですよ。お互いに違うものを持っているからリスペクトしあえるし、相変わらず輝いたチームでいられるので、その辺に意味があるのだと思います。

何となくみんなこなせる70点人間になるとダメ。70点人間が10人集まってもダメなんですよ。「何かは100点だけど、それ以外は全然だね」みたいな人間が集まるとすごく面白いですよ(笑)。

(インタビュー：塚田、笹本、桐畑)

(写真：会社提供)

10期生のみなさん ようこそ立教MBAへ！

2011年3月11日に発生した東日本大震災の影響で、4月5日に予定されていた10期生の入学式は中止となり、また授業開始も2週間先送りとなりました。そのような中、9期生の有志が10期生のみなさんを歓迎して、以下のイベントを行いました。

①公認研究会による説明会の開催



4月16日(土)13時30分から8号館において、「公認研究会(アントレプレナー研究会・新産業研究会・ビジネスデザイン研究会・BizCom・ホスピタリティ研究会)による説明会」が行われました。プレゼンを通して、おのおのアピールしました。その後の個別相談タイムがきっかけで会員になった、という10期生も少なくなかったようです。

(桐畑)